

平成29年度

かほく市総合教育会議
議 事 録

平成30年1月23日

議 事 録

平成29年度 かほく市総合教育会議議事録	
招集年月日	平成30年1月23日(火)
招集の場所	かほく市役所 301会議室
開 会	平成30年1月23日(火) 午後1時28分宣告
出席者	市長 油野 和一郎
	教育長 山越 充
	教育長職務代理者 山本 滝男
	教育委員 松井 三枝子
	教育委員 長柄 悦子
	教育委員 南 文夫
事務局	教育部長 虎谷 寛
	学校教育課長 笹山 明夫
	生涯学習課長 折戸 靖幸
	教育センター 所長 西尾 康弘
	学校教育課 課長補佐 北川 直紀
	生涯学習課 課長補佐 中田 まき子
	学校教育課 主査 杉角 浩一
協議・調整事項	1) 教育大綱(教育振興基本計画)の見直しについて 2) 教職員の働き方改革について 3) 小中一貫の英語教育について 4) 七塚小学校長寿命化改修について

開 会

【虎谷教育部長】

平成29年度かほく市総合教育会議を開催します。

市長あいさつ

【油野市長】

昨年度の総合教育会議では、「七塚小学校、外日角小学校」について、現場視察の後、会議を開催し、「両小学校の長寿命化改修」について協議した。また、「学童保育クラブの現状」や「通学路の安全点検、グリーンベルト」についても、意見交換させていただいた。

外日角小学校については、現在、実施設計を行っており、来年度は工事に着手したい。七塚小学校は、基本設計を行っており、来年度は実施設計に着手する。路側帯のグリーンベルトについては、市道では、今年も各学校に近いところから設置し、県道のグリーンベルトについては、石川県に要望している。また、国道については、自歩道整備ということで、新たに高松地区も事業採択を受け、これから設計・用地買収・工事と進めることとなる。時間がかかるが子どもたちの安全・安心を確保したい。

これからも、子どもたちが心も体も健やかにたくましく育ってもらうために全力で取り組みたい。そのためにも、委員の皆さんのご協力をいただき、連携していきたい。本日の会議では委員皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。

【虎谷教育部長】

市総合教育会議運営要綱第3条の規定に基づき会議の議長は教育長とする。

議事進行は議長である山越教育長にお願いする。

同要綱第4条第3項の規定に基づき議事録の署名を市長と教育委員1名となっていることから教育委員1名を選出願う。

議事録署名委員の指名

【山越議長（教育長）】

運営要綱の規定により会議の進行をします。この会議の議事録の署名は油野市長、山本教育長職務代理者にお願いする。

協議・調整事項

教育大綱（教育振興基本計画）の見直しについて

【山越議長】

これまでの取組の評価について、事務局の方から説明願う。

【虎谷教育部長】

（これまでの取組の評価）

- ・資料により説明。
- ・平成26年度～平成29年度の新たな施策・拡充した施策の一部を説明
- ・平成26年度～平成28年度末までの達成状況（全84項目）
 - A：計画（最終）目標を達成している。26項目（31%）
 - B：計画どおり進んでいる。58項目（69%）
- ・概ね計画どおり進んでいる。

【山越議長】

これまでの取組に関し、市長の方から何かご意見はありませんか。

【油野市長】

これまで子どもたちの教育環境を充実してあげたいという方針で、各種事業に取り組んできた。その思いから県内でも先駆けて校舎の耐震化を図るなど教育関連予算への投資を惜しまずに積極的に行ってきた。子どもたちへの教育は、かほく市にとって大きな柱の一つであり、今後も子どもたちの教育環境の整備に積極的に取り組みたい。

【山越議長】

社会動向、教育を取り巻く状況の変化について、事務局の方から説明願う。

【虎谷教育部長】

（社会動向、教育を取り巻く状況の変化について）

- ・資料により説明
- ・社会動向の変化（人口減少、高齢化、IoT等、ICT化、グローバル化、地域コミュニティの希薄化、防災・安全）
- ・教育を取り巻く状況の変化（次期学習指導要領、幼児教育、特別支援、家庭教育支援、地域の教育力）
- ・これらを踏まえ平成31年度から35年度までの教育大綱の見直しを進めたい。

【山越議長】

これまでの市の取組みを踏まえて、今後の教育大綱の見直しの方向性について教育委員の皆様から何かご意見はありませんか。

【山本教育長職務代理者】

これまでの取組みの評価については、全体的に年々「A評価」が増えてきているということで順調に進んでいると思う。

読書活動の推進のため、中学校にも図書館司書を専属で配置できないか。小学校に司書を配置してから読書量が増えてきている。中学校にも小学校から司書が（週1日）来

ていただけることになったが、まだ十分とは言えない。読書は「知・徳・体」の徳の部分の大きなウエイトを占めており、是非お願いしたい。

【松井教育委員】

周囲（市外）で聞く学校現場の環境と比較すると、かほく市は学校現場の環境がいろいろな面で充実していると感じる。

女性がキャリアアップするには学童保育クラブの充実が必要であるという新聞記事があった。親が子どもを預けて安心して働けるということで学童保育クラブへの需要が益々高まる中、今後は、学童保育クラブにも教育の力が必要となる。また、かほく市の保育園が認定こども園に移行するというので、幼児教育に対する認識の高まりは親から必ず求められるものである。学童保育クラブ及びこども園に教育の力を注いでいくためにも、その環境を充実させて欲しい。

【長柄教育委員】

タブレット等を活用した授業を多く取り入れてはどうか。小学生では難しいかもしれないが、中学生ではタブレット等を持たせて、それを活用した授業をしてみてもどうか。学校の授業はもちろん、家庭に帰ってからの勉強もゲーム感覚で取り組めるので、子どもたちがとても積極的になり楽しんで勉強に取り組むようになる。世の中が（ICT化が進む）こういう時代なので、学校で使ってはいけないと規制するよりも積極的に活用していく方が良いのではないか。

【南教育委員】

子どもたちの安全・安心のためには、通学路のグリーンベルトの設置など（ハード面）の整備はもちろんだが、何よりも地域で見守っていくことが大切である。七塚小学校や外日角小学校の古くからある区域では狭い道が多く、子どもたちの登下校を見ると大変危険であると感じる。そういった場所でグリーンベルトを設置することは、かなり有効であると感じる。それと合わせて安全・安心のための施策ということで地域を抱き込んでもっと見守り隊を増やしていければいい。近年、高齢者ドライバーが増え、集団登校の列に突っ込む事故なども全国的に見受けられ大変危険である。

【油野市長】

認定こども園への移行については、これまでの保育所では保護者が働いていなければ子どもを預けることができなかった。しかし認定こども園にすることで保護者が働いていなくても子どもを預けることが可能となる。来年度からは学園台保育園を幼保連携型のこども園として民間に委託する。認定こども園になったからといって保育・教育面が大きく変わるということは、基本的にはない。

学校でのタブレットの活用については、来年度予算でタブレット（指導者用）の購入を検討している。生徒用のタブレットについても、学校現場で要望があるのであれば積極的に提案して欲しい。

子どもたちの安全・安心については、見守り隊を増やすために、それぞれの地域の方がボランティア精神のもと自分たちの力で地域をいかに守っていくかという気持ちとその和をいかに広げていくかということが重要である。

また、高齢者ドライバーについては、免許の返納数が平成20年度から25年度までは年10件程度だったが、平成26年度以降（40件～80件程度）年々増加している。

【山越議長】

教育委員の皆さんから出された意見、それに対しての市長の見解を総括して、これからの教育大綱の見直しの作業にあたっていきたい。

教職員の働き方改革について

【山越議長】

教職員の働き方改革について、事務局の方から説明願う。

【笹山学校教育課長】

（かほく市立学校教職員時間外勤務時間の状況）

- ・資料により説明。
- ・平成29年4月から11月までの調査で過労死ラインと言われる月80～100時間、100時間超の時間外勤務を行っている教職員が非常に多い。
- ・中学校がより深刻である。（時間外勤務時間：全体平均で100時間超／月）

（文部科学省「中央教育審議会」の緊急提言）

- ・資料により説明
- ① 校長、教育委員会は学校において「勤務時間」を意識した働き方を進める。
- ② 全ての教育関係者が学校・教職員の業務改善の取組みを強く推進する。
- ③ 国として持続可能な勤務環境整備のための支援充実を図る。

【山越議長】

今後の取組として、学校あるいは教職員がやること又は学校以外が本来やるべきことをしっかり区分け整理することが大切である。また、多忙化を改善していくためには、事務的な支援や予算措置などがどうしても必要になる。

小中一貫の英語教育について

【笹山学校教育課長】

（学習指導要領改訂に伴う外国語教育について）

- ・資料により説明。
- ・平成32年度の次期学習指導要領の全面実施にむけて、かほく市では30年度から段階的に先行実施する。
- ・小学校高学年（5・6年生）については教科型の外国語教育（年間70単位）の実施と学習評価を行う。

- ・小学校中学年（3・4年生）については従来、高学年で行っていた「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動（年間35単位）を行う。
- ・かほく市と同じく来年度より先行実施を行う全国の学校の割合は小学校3・4年生で29%、5・6年生で25%である。
- ・授業数が新たに増える小学校3年生以上の授業で日本人英語指導助手（JTE）と担任との2名体制（T・T授業）による授業を実施する。担任との様々な打合せやコミュニケーションが必要であることを考慮すると、日本人英語指導助手（JTE）が適当である。3～4人ぐらいの日本人英語指導助手（JTE）を小学校に配置したい。
- ・各中学校にALTを1名ずつ専属で配置し、教員とALTによる2名体制（T・T授業）の授業を増やし、英語教育の充実を図る。
- ・小学校、中学校において、それぞれの授業の参観をしたり、意見交換を行ったり、連続したカリキュラムを意識した交流と連携を図る。

【山越議長】

小中一貫の英語教育について何かご意見はありませんか。

【松井教育委員】

英語教育にはマンパワー（教える先生側の能力向上）が欠かせない。そして、先生方が多忙な中でもブラッシュアップする時間を取ることも必要である。また、先行して実施するためのかほく市の（英語教育の）道筋をしっかりとつけていかなければならない。

かほく市では、英検について他の自治体よりも先に注目し、受検者に対する受検費用の補助をしてきた。ただ、補助がなくなり、最近受検数が減少傾向にある中、英検に代わるものとして新たに個々の英語力を測る「GTEC（ジーテック）」という検定がある。これについても市の方で支援していただけないか検討していただきたい。

【山越議長】

この小学校1年生からの外国語活動というのは、かほく市の総合戦略プランの中でも位置づけられている。かほく市のように英語教育を先行実施するのは、全国的に二十数パーセントしかなく、県内だけでみるとさらに少ない。

【油野市長】

現在、日本人英語指導助手（JTE）の募集をしており、多くの方から応募していただいている。子どもたちの英語力をいかに高めることができるかということで優秀な人材が採用できればいいと考えている。

【松井教育委員】

先生方の教材研究にかける時間が非常に少なく校務にかける時間が多い。先生方の教材研究にかける時間が、しっかりとれるような体制にして欲しい。

【山越議長】

この点については、働き方改革も含めて考えていかなければならない。

七塚小学校長寿命化改修について**【虎谷教育部長】****（七塚小学校長寿命化改修について）**

資料により説明

- ・既存校舎（耐震補強済）の改修と一部増築を行う。
- ・学校運営協議会での意見を取り入れて配置等を計画。

（質疑・ご意見）**【山越議長】**

質疑、ご意見はありませんか。

【山本教育長職務代理者】

全クラス合わせて12教室で計画されているが、もし将来的に教室数が足りなくなった場合は。

【虎谷教育部長】

2階、3階の各フロアに学習室を設けている。将来的に教室が増えることがあれば、このような部屋を含めて相対的に検討して対応したい。

そ の 他**【山越議長】**

その他、何かございましたらお願いします。

【山本教育長職務代理者】

かほく市の偉人に関する品や歴史・文化的な資料を一堂に集め公開するような施設をつくってはどうか。かほく市のことを紹介し、知ってもらえる施設としてアピールできるのでは。

【油野市長】

各公共施設に現在、展示、保管されている偉人関連の品や文化財等を一箇所に集めることで、確実に多くの人に関心をもって見に来てくれるか疑問がある。うみっこらんど七塚などの既存の施設を活用することで対応ができるのではないかと。

【山越議長】

新しい施設をつくるのは難しいが、いろいろなところに分散している資料等を一定の期間うみっこらんど七塚等のギャラリーに並べて展示することならできると。

閉 会

【山越議長】

以上で、平成29年度かほく市総合教育会議を閉会します。
お疲れ様でした。

午後3時5分 閉会

議長（教育長） 山 越 充

署名（市 長） 油 野 和一郎

署名（教育委員） 山 本 滝 男